

ICEP 2019 カンボジア

インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム
International Community Engagement Program

活動報告書



Photo : Japan Heart

認定NPO法人ミュージック・シェアリング

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ708
TEL:03-3261-1855 FAX:03-3261-1856 E-mail:info@musicsharing.jp
<http://www.musicsharing.jp>

■ 認定NPO法人ミュージック・シェアリングとは

1992年より、文化・芸術の振興、子どもの健全育成、福祉の増進を目的として、成長過程にある子どもたちや音楽に触れる機会の少ない人々に本物の音楽を届ける活動を行っています。本物の音楽を通して豊かな心を育てるとともに、音楽家の社会貢献活動に対する理解を深め

る場を提供する音楽プログラムを実施しています。ミュージック・シェアリングの活動は全て、個人、法人からのご寄付・ご支援、助成金、企業協力によって成り立っています。

■ ICEP / インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム

五嶋みどりと世界中からオーディションによって選ばれた若手演奏家3名がカルテットを組み、アジアの開発途上地域の学校・病院・施設などを訪れ、音楽を通じた教育支援と文化交流を行うプログラムです。これまでに、ベトナム(2006年)、カンボジア(2007年)、インドネシア(2008年)、モンゴル(2009年)、ラオス(2010年)、バングラデシュ

(2012年)、ミャンマー(2013年)、ネパール(2016年)、インド(2017年)、ベトナム(2018年)、カンボジア(2019年)で実施しました。このカルテットは12月に行われるICEPツアーの翌年6月には日本での「訪問プログラム」に参加し、東京と大阪で「活動報告コンサート」を行います。

ICEPの2つの目的

◆未知の文化体験をアジアの子どもたちに

訪問する地域の人々は、身近な場所でクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどありません。子どもたちをはじめとする現地の人々が生のクラシック音楽に触れることで、クリエイティビティや向上心を育むことを目指しています。

◆世界各国の若手演奏家とともに活動

五嶋みどりとカルテットを組むのは、世界からオーディションにより選ばれた若手演奏家3名。オーディションでは録音審査以外に小論文やメールインタビューの課題を設け、総合的に評価しています。若手演奏家がICEPでの経験を通じて音楽のもたらす力について見つめ直し、音楽家としてできる社会貢献活動とはどのようなことなのか、実体験を通じて認識していきます。

日本での活動

ICEP訪問国での活動を日本国内に発信するため、ツアーの翌年、日本でカルテットを再結成しています。演奏とともに訪問国での活動について演奏家自身が語る「ICEP活動報告コンサート」の実施に加えて、日本の学校・病院・施設等を訪問する「訪問プログラム」にも参加し、日本の子どもたちや社会的に立場の弱い人たちにも本物の音楽を届けます。



Photo : Helping Hand

■ 参加アーティスト



Photo: T. Greenfield-Sanders

五嶋みどり / Midori (ヴァイオリン)

11歳でニューヨーク・フィルと共演し衝撃的なデビューを果たして以来、世界の著名な音楽家と共演を重ねる一方、音楽界の将来を見据え委嘱プロジェクトや未開のレパートリーの紹介など啓発も精力的に行う。1992年に設立した「Midori & Friends」(ニューヨーク)と認定NPO法人ミュージック・シェアリングなどを中心に“本物の音楽”の力の限界に挑み続け、音楽家による社会貢献のロールモデルを自ら体現し、世界各地で文化外交を積極的に推し進める。2007年から国連ビー

ス・メッセンジャー。カーティス音楽院で教鞭を執るほか世界の主要音楽院や夏期講習のマスタークラスなどで後進の指導にも余念がない。ソリストとして参加した「パウル・ヒンデミット作品集」は第56回グラミー賞優秀クラシック・コンベンディウム賞(2013年)を受賞。使用楽器はガアルネリ・デル・ジェス「エクス・フーベルマン」(1734年作)



エリーナ・ブクシャ / Elina Buksha (ヴァイオリン)

クラシック専門誌『The Strad』は「深い表現力、洗練された技巧と独創的な演奏」と称賛。2012年のラトビア音楽祭で最優秀新人賞受賞。ワロン音楽祭、ヤロスラブリ国際音楽祭、ラインガウ音楽祭などに参加。ミラノ・スカラ座管弦楽団、ラトビア国立交響楽団、リガ・シンフォニエッタ、シンフォニア・ヴァルソヴィア、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団、南西ドイツ・フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団などのオーケストラと共演。また、マリア・ジョアン・ピレシユ、五嶋みどり、オーギュスタ

ン・デュメイ、フランク・ブラレイ、ゲイリー・ホフマン、アンリ・ドマルケット、モディリアーニ弦楽四重奏団とも共演。5歳からヴァイオリンを始め、ベルギー国立エリザベート王妃音楽院にてオーギュスタン・デュメイに師事。現在はクリストフ・ボッペンに師事する。サン＝サーンスとラロのヴァイオリン協奏曲の録音をアルファ・レーベルよりリリース。使用楽器はエリザベート王妃音楽院より貸与されたドメニコ・モンタニャーナ(1723年作)



エリカ・グレイ / Erika Gray (ヴァイオリン)

欧米をはじめ日本、オーストラリア、世界各国で活躍する。フィッシュ国立室内楽コンクールで金賞、サロメ・ヤング・アーティスト・コンペティションで第2位。2015年スタルバーク国際弦楽コンクール、アーヴィング・M・クライン国際弦楽コンクールでも入賞。アメリカ合衆国イリノイ州出身。2017年にシカゴ交響楽団と共演し、『ドン・キホーテ』でソリストを務める。ナショナル・パブリック・ラジオの「From the Top」でもソロ演奏を放送され、BBCプロムスやPMF(サントリーホール)にも出演。ワシ

トン・ナショナル交響楽団、カーティス交響楽団、N.Y.ストリング・オーケストラとカーネギーホールで演奏。ヴェルビエ音楽祭、クナイゼルホール音楽祭にも参加。カーティス音楽院卒。ロベルト・ディアスやシン＝ヤン・ホアンに師事。カーティス交響楽団の首席ヴァイオリストとなりヨーロッパ公演に参加。ジェリー・アンド・マーガレット・レンフェスト・フェロシップを受ける。フィラデルフィア管弦楽団のメンバーとしてツアーに参加した。



ノエミ・レイモンド-フリセット / Noémie Raymond-Friset (チェロ)

カナダのFMラジオ『CBC Music』で「若く優れたカナダ人クラシック音楽家30人」として紹介される。エドウィン・H・&・リー・W・シャット弦楽コンクール、WASMOヤング・アーティスト・コンクール、ステッピング・ストーンで各1位。B・ケネディ・バーボー、ギー・スーシー賞を受賞。ヴィルトゥオーゾ「イングランド」国際音楽コンクール第1位にも輝き、ロイヤル・アルバート・ホールでデビュー。カナダ芸術評議会主催のミュージカル・インストゥルメント・バンク・コンクールより助成金を受ける。イーストマ

ン・チェロ・アンサンブルの芸術ディレクターを務め、ハイフェッツ国際音楽協会のツアーに定期的に参加し、『Performance Today』に出演。オーケストラ共演、室内楽、リサイタル活動にも意欲的。「4つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲」でピンカス・ズーカーマンとも共演する。ニューイングランド音楽院で学士、モントリオール大学で修士(音楽)を取得。現在はイーストマン音楽学校で博士号を目指す。使用楽器はカニメックス(株)より貸与されたマッテオ・ゴフリラー「エクス・カーティス」(1700年作)

■ スタッフ

クリスティーナ・ズラタレバ / Kristina Zlatareva (コーディネーター)

■ 訪問国

カンボジア王国 Kingdom of Cambodia

面積 18.1万平方キロメートル ※日本の約1/2弱

首都 プノンペン

宗教 仏教 ※一部少数民族はイスラム教

人口 16.3百万人 ※2018年IMF推定値

民族 人口の90%がカンボジア人 ※クメール人

言語 カンボジア語

※外務省ホームページ(2019)より

略史

アンコール時代、インドシナ半島の大部分に版図を広げた大王朝の栄華は、15世紀以降、度重なるシャムとベトナムの侵攻によって衰退の一途をたどった。1863年から一世紀近くフランスによる植民地支配を受けた後、遂に1953年に完全独立。その後10年間は平和と繁栄の時代を迎えたが、ベトナム戦争のあおりで国内はさまざまな勢力による内戦状態に突入した。ベトナム戦争時の1967年、北ベトナムがはじめてカンボジア領内に地雷を敷設したといわれており、また、「ホーチミンルート」と呼ばれる北部ベトナム～民族解放戦線の補給ルート(カンボジア東部)をアメリカ軍が空爆し、その時期投下された大量の爆弾が現在もなお、不発弾となってカンボジア東部の人々の生活を脅かしている。

また、クメール・ルージュ(ポル・ポト派)と呼ばれる共産主義勢力が台頭し、1975年の政権の座につくと、地方への強制移住・強制労働による餓死や、旧政府・軍関係者だけでなく多数の一般市民が罪もなく処刑された結果、わずか4年間で200万人以上の国民が死亡した。

続いて、1980年代は内戦がさらに泥沼化していった。北・西部のタイ国境地帯に追い詰められたクメール・ルージュは、最後の軍事拠点を地雷敷設によって防衛作戦を展開し、政府軍も地雷で包囲するなど、双方によって仕掛けられた大量の地雷が、今なお北・西部の国境地帯を覆いつくしている。

※JICA「What is Cambodian Mine Action Centre?」(2007)より

訪問地域

プノンペン、タケオ州、カンダル州、コンボンスプー州、シェムリアップ、バットアンバン



■ 活動概要

活動期間	2019年12月18日～12月27日
プログラム回数	計35回(訪問コンサート17箇所)
参加者総数	約2,000名
主催	認定NPO法人ミュージック・シェアリング
助成	日本万国博覧会記念基金、独立行政法人国際交流基金
協賛	キッコーマン株式会社、株式会社UACJ、三井石油開発株式会社、花王株式会社、株式会社ダイナトレック、牧野禮子
協力	認定NPO法人ジャパンハート、認定NPO法人国境なき子どもたち
演奏曲	ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第6番変ロ長調 シューマン 弦楽四重奏曲第2番へ長調 など

■ スケジュール

プノンペンのイオンモールで4日間リハーサルを行った後、2019年12月18日にタケオ州でツアー開始。プノンペンを中心に、タケオ州、カンダル州、コンボンスプー州、シェムリアップ、バットアンバンを訪れ、10日間のツアーを終了しました。

日程	訪問地	訪問先・プログラム
12月14日 ～17日	プノンペン	AEON Mall Phnom Penhにてリハーサル
12月18日	タケオ州	Wat Opot Children's Community (孤児院)
12月19日	カンダル州	ジャパンハートこども医療センター(病院)
		Cambodian Children's Fund (教育施設)
12月20日	プノンペン	C.H.O.I.C.E Cambodia (学校)
		Liger Leadership Academy (学校)
12月21日		Prey Thom Village school (学校)
12月22日	コンボンスプー州	New Hope for Cambodian Children (孤児院)
		Cambodian Living Arts (芸術協会)
12月23日	シェムリアップ	Angkor Hospital for Children (病院)
12月24日		Red Cross - Physical Rehabilitation Center (身体リハビリ施設)
		Cambodian Community Dream Organization (学校)
12月25日	バットアンバン	若者の家(自立支援施設)
12月26日	プノンペン	National Borey For Infants & Children (孤児院)
		Royal University of Fine Arts (王立芸術大学)
		Helping Hand (学校)
12月27日		Japanese Weekend School (補習授業校)
		SHE Rescue Home (児童保護施設)

■ 訪問レポート

● 12月18日【タケオ州】

1. Wat Opot Children's Community (孤児院)

<http://www.watopot.org/>

Wat Opot Children's Community は、カンボジアにおける AIDS 患者のホスピスとして 2002 年に創立されましたが、現在では孤児院として利用されています。タケオ州の小さな村に位置する孤児院の大きく美しいキャンパスには 180 人以上の子どもや青少年がいます。演奏後には子どもたちとの交流も行われました。

- 参加者：約 110 名 (1 回目約 80 名、2 回目約 30 名)



1. 2 回目のコンサートの様子

● 12月19日【カンダル州・プノンペン】

2. ジャパンハートこども医療センター (病院)

www.japanheart.org/en/

2005年に認定NPO法人ジャパンハートが現地の人々に医療サービスを提供し、カンボジアの将来の医療従事者としてより多くの地元の人材をサポートするために構築した独自のクリニックです。ジャパンハートこども医療センターは近隣地域の地方自治体所有の診療所と協力して、多くの患者を受け入れています。

- 参加者：約 200 名 (5 公演)



2. がん患者に向けて演奏するエリーナ

3. Cambodian Children's Fund (教育施設)

<https://www.cambodianchildrensfund.org/>

Cambodian Children's Fund (CCF) は、2004 年以来、旧ゴミ捨て場を中心に、カンボジアで最も貧しいコミュニティのいくつかと協力してきました。設立当時の CCF は、ゴミ捨て場に住む 45 人の子どもたちの健康と幸福を目指していましたが、今日では、受賞歴のある CCF の教育プログラムを通じて、約 2,000 人の学生が自分と家族のために勉強に取り組んでいます。

- 参加者：約 80 名 (2 公演、各 40 名)



3. グラニーカフェで演奏した様子

私たちは、カンダル州のジャパンハート (japanheart.org) が運営する病院で、たった今とても満足した午前中の訪問を終えたところです (プノンペンの中心から車で約 90 分)。彼らはカンボジアの小児腫瘍学部門を持つ数少ない病院の一つです。私たちは、いくつかの病棟の個室にも行きました。時にはカルテットとして、時には一人ひとりで、新生児とその家族のために弾き、また、マスクをつけて癌治療の子供たちに弾いたのです。私た

ちは充実した時を過ごしました。患者たちは笑顔で私たちの音楽を歓迎してくれ、彼らからは私たちが音楽で伝えられたと思うに等しい愛を受け取ったと感じたのです。病院のスタッフは患者と素晴らしい信頼関係で結ばれていました。そしてこの地で、今日という日を約束されることのない彼らと過ごせた感動は言葉で表せません。

(ICEP Blog 五嶋みどりのブログより抜粋)

● 12月20日【プノンペン】

4. C.H.O.I.C.E Cambodia (学校)

<https://choice-cambodia.org/>

C.H.O.I.C.Eとは、Charitable Humanitarian Organization In Cambodia by Expatsの略称で、2006年に設立された非営利団体です。C.H.O.I.C.E Cambodiaはメコン川のほとりにあり、プノンペンの首都から約35kmの場所に位置しています。

- 参加者：約400名（2公演、各200名）



4. 視覚障がいの子ともと交流するエリカ

5. Liger Leadership Academy (学校)

<http://www.ligeracademy.org/>

Liger Leadership Academy(LLA)は、カンボジアの有望な若者を教育し、社会的意識を持つ起業家のリーダーを育成しています。LLAは、包括的で国際的に競争力のある教育と革新的なSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)と起業家精神カリキュラムを組み合わせた住宅奨学金プログラムを経済的に恵まれない学生のために提供しています。

- 参加者：約120名（1公演）



5. 高校生たちに演奏を届けるカルテット

支援が不十分なコミュニティで目の見えない子どもが生きていくのは辛く大変なことです。そのような村では、両親が長時間働いていて、障がいのある子どもを育てる余裕のないことがしばしばあります。チョイス・カンボジア (choice-cambodia.org) に到着すると、私たちはリハーサルルーム(控室)に案内されて、この学校には目の見えない男の子が一人いるのだと教えてもらいました。その男の子は付き添われて部屋に入って来たので、本番前に私たちの楽器の音を聴くことができました。“S君”は椅子の上でポテトチップスをむしゃむしゃ食べながら、耳を澄ませ、うなずき、足をぶらぶらさせていましたが、私たちが話し合いのために演奏を中断すると、彼は少しだけクメール語で何かを言いました。私たちには理解できませんでしたが、きっと演奏を続けてほしいと言ったのでしょう。演奏を再開すると彼は満足げな表情を浮かべたのですから。チョイス・カンボジアで小学生に向けたコンサートを終えた後、S君には私のヴィオラに触れる機会がありました。通訳の助けを借りて私たちはお互いにコミュニケーションを取りました。私は

彼の手を取って楽器の上で移動させながら、それぞれのパーツと材料について説明をしました。彼が弦を指ではじくので、私はヴィオラを彼の肩と顎の間に置いてちゃんと構えさせました。弦の上で弓を一緒に動かしていましたが、数分後、彼は自分でやってみようと言いました。自由に音を出してヴィオラを奏でている間、彼はにっこり笑っていました。五感のうち一つが失われると他の四つの感覚は鋭敏になります。S君は他の子どもたちとは違う点に気づきました。ヴィオラの裏板から振動を感じたり、それぞれの弦の音の違いを聴いたりできたのです。それから30分ほど私たちは一緒に開放弦を弾きました。30分で止めたのは、彼がちょっと疲れてきたのと、私の出発時間が迫っていたからです。最後に彼は自分もヴィオラが欲しいと言いました！ 私はカンボジアでの時間が愛おしくて、ツアー最後の数日間も待ちきれないくらいです！

(ICEP Blog エリカのブログより抜粋)

● 12月21日【プノンペン】

6. Prey Thom Village school (学校)

<https://www.aarjapan.gr.jp/>

Prey Thom Village schoolでは、AAR Japanの支援を受け、7つの公演を行いました。AAR Japanは1992年の設立以来、カンボジアの首都プノンペンでの職業訓練、車いす製造・販売など、現在も活動を広げています。

- 参加者：約 380 名
(7公演、1回目 200名、2～7回目各 30名)



6. 子どもたちに演奏を届けるカルテット

● 12月22日【コンポンスプー州・シェムリアップ】

7. New Hope for Cambodian Children (孤児院)

<https://newhopeforcambodianchildren.org/>

New Hope for Cambodian Children では 270 人の孤児と HIV/AIDSを持つ捨て子のためのフルタイムのホリスティックケアが提供されています。今回の訪問では、孤児院の 200 人の子どもたちのために演奏し、伝統的なダンスのパフォーマンスを鑑賞し、クリスマスパーティーでクリスマスソングを演奏したりして、子どもたち、教師、創設者のキャシーとジョン・タッカーと交流を行いました。

- 参加者：約 200 名 (1公演)



7. 孤児院で演奏をするカルテット

8. Cambodian Living Arts (芸術協会)

<https://www.cambodianlivingarts.org/>

Cambodian Living Arts(CLA)は、奨学金、フェローシップ、劇団や個人への支援を通じて、才能ある人材が芸術のキャリアを構築・発展させることを支援するのに焦点を当てています。演奏後には女性パフォーマーとして直面する課題についての話し合いや、カンボジアの伝統的な楽器演奏によるダンスと歌の披露が行われました。

- 参加者：約15名 (1公演)



8. 劇団員たちと写真を撮るカルテット

カンボジアのいくつかの学校、病院、ホスピスなどで演奏してきました。皆それぞれ自分たちの受け止め方で私たちの音楽を体験してくれています。訪問先はどこも特別な場所ですが、とりわけ2つの施設が私の琴線に触れました。

HIVに感染した子どもを受け入れている2つの施設(ワット・オボットとニュー・ホープ)でのことです。そこにいる子どもたちは親に捨てられた上に孤児院からも拒絶されるなどして社会から疎外されてきました。にもかかわらず彼らは自分たちの

コミュニティーを築いています。彼らが普通の生活を送りつつ成長し、しっかり教育を受けて、大きな家族を持つようになる——それを一日だけでも目の当たりにできたのは本当に感動的でした。彼らに演奏を届けて私たちの音楽に対する情熱を分かち合えたのはとても特別なことです。こういった場所からの帰り道では心が温かさで希望で満たされています！

● 12月23日【シェムリアップ】

9. Angkor Hospital for Children (病院)

<https://angkorhospital.org/>

Angkor Hospital for Childrenは、1999年以来、カンボジアのすべての州の子どもたちに、家族の経済状況に関係なく、質の高いケアを提供してきました。ICEPの訪問では、病室訪問、中庭でのコンサートだけでなく、隔離室にいる重症患者の子どもたちのためにもガラスドア越しに演奏が行われました。

- 参加者：約 135 名（1 回目約 10 名、2 回目約 80 名、3 回目約 15 名、4 回目約 30 名）



9. 病棟の様子

● 12月24日【シェムリアップ】

10. Red Cross - Physical Rehabilitation Center (身体リハビリ施設)

Red Cross - Physical Rehabilitation Center は、1992 年からカンボジアで、紛争の影響を受けた人々を支援しています。患者の多くは地雷による事故によって手足の損傷を受けており、人工的な四肢や車椅子の提供を受けています。

- 参加者：約 15 名（1 公演）



10. スタッフと患者へ演奏するカルテット

11. Cambodian Community Dream Organization (学校)

<https://www.theccdo.org/>

Cambodian Community Dream Organizationは、2007年に水井戸を作る目的で組織されましたが、今日では、健康、教育、幸福を目的としたプログラムを実施することで、シェムリアップ周辺の村の状況の改善に取り組んでいます。

ICEPカルテットは午後の授業に出席した 100 人の子どもたちのために演奏を行いました。

- 参加者：約 100 名（1 公演）



11. 学校の様子

● 12月25日【バタンバン】

12. 若者の家（自立支援施設）

<https://knk.or.jp/>

2000年以來、若者の家は非常に貧しい家族、ストリートチルドレン、人身売買や虐待の犠牲者、刑務所の若者を支援してきました。若者の家では、職業訓練とともに授業も行い、英語や縫製などの新しいスキルを身につける機会を提供しています。施設には避難所や図書館もあります。

- 参加者：約40名（1公演）



12. 演奏を披露するカルテット

● 12月26日【プノンペン】

13. National Borey For Infants & Children（孤児院）

National Borey For Infants & Childrenは、障がいのある子どもたちや孤児が生活する国営施設です。利用者には、治療、精神的なサポート、リハビリテーションなどを含む24時間365日のケアが提供されています。

カルテットとして演奏した後、一人ひとりの子どもたちのためにも部屋を回り、音楽を通して密接に交流する機会がありました。

- 参加者：149名



13. 障がい児に演奏を届けるみどり

14. Royal University of Fine Arts（王立芸術大学）

<http://www.rufa.edu.kh/>

王立美術大学は1918年に設立されました。1975年から1980年まではすべての授業が休止し、スタッフはクメール・ルージュによって田舎に避難しました。

この訪問では室内楽のマスタークラスも開催され、学生たちのカルテットの演奏する「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」に対して指導が行われた後、ICEPカルテットによる演奏が披露されました。

- 参加者：23名（1回目15名、2回目8名）



14. マスタークラスの様子

15. Helping Hand (学校)

<http://www.helpinghand.support/>

Helping Hand は、プノンペンのスラムで生活する子どもたちに教育支援や奨学金を提供しています。ICEPカルテットの訪問は、小学生のための屋内コンサートと、スラム中心地での屋外コンサートで構成されました。

- 参加者：約 90 名（1 回目 30 名、2 回目 60 名）



15. 学生と交流するエリカ

● 12月27日【プノンペン】

16. Japanese Weekend School (補習授業校)

<http://www.jacam.cc/>

Japanese Weekend School は 2015 年に設立された日本語補習授業校です。美しい校舎のある、賑やかなプノンペンの郊外の静かな地区に位置しています。学校のバスケットボールコートで行われたコンサートでは、子どもたちは音楽に注意深く耳を傾け、演奏後には多くの質問が飛びました。

- 参加者：約 30 名（1 公演）



16. バスケットコートで演奏する様子

17. SHE Rescue Home (児童保護施設)

<https://sherescuehome.org/>

SHE Rescue Home は、レイプ、人身売買、売春などの被害に遭った子どもたちを保護する施設です。

施設の場所は公開されていないので、カルテットは彼女たちが作った製品を販売するギフトショップで迎えられました。

- 参加者：約 15 名

私たちは12月27日、2週間滞在したカンボジアを後にしました。その間、特に発展するプノンペンで次々に展開する素晴らしい経験は、12年ぶりに訪れた私にとって、兎にも角にも開いた口がふさがらない、という有様でした。車が全く混雑していなかった街は、今や渋滞の問題が発生し、ショッピングモールや、多くの新しいビル、ホテルなどが次々と建てられています。カンボジアブランドのコーヒーチェーン店といえば、ベトナム、アメリカ、タイ、イギリスなどから進出したカフェに並んで至る所にあり。また、クメール料理にしても色々な料理(例えば鍋料理、宮廷料理、家庭料理〜!)があり、各国のレストランでも、ビーガン、グルテンフリー、オーガニック、何だっけ見つけれられるのです。今では、ほとんどの地方に供給される水はTAP(水道蛇口)から飲むことができ、WHO(世界保健機関)が定めた基準を満たしていますが、それぞれの世帯への上水道にまだ問題が残っているようです。滞在中に停電は一回もありませんでした。学校の教室では、ホワイトボード、机、本などが目に入って、各クラスにはだいたい同じ年齢層の生徒がいました。病院でも、以前より良い照明、アップグレードされた治療状況、建造物の風通しも良くなり、12年前には単に栄養失調や下痢の病人が横行していたものが、現在は病名、原因もわかり治癒されるようになったのです。

しかしながら、発展の反面で、悲観的な面も現われるものです。街では、違法化されているにもかかわらず、ボス、客、雇い主たち、を固有名詞で呼ばされ、身の丈が半分ほどの子供たちが、

おそらく性的な目的のために売買される多くの例を見かけました。また、プラスチックごみやビニールは、使用中または未使用のものがそこら中に投げ捨ててあり、電気や水道、適切な安全な住宅がないスラム街やゴミ捨て場のような貧困下に住む人々がまだ残っているのも目撃しました。

カンボジアには多くのNGO(カンボジアはNGOの数が世界で最も多い国のうちの一つ)が存在し、それらの中には、現在活動中のものもあれば、問題を抱えているものもあります。設立者が明らかに時間の経過によって、仕事と組織を引き継ぐ新しいリーダーシップを見つける準備段階にさしかかっているのもその一つです。それに、(NPO NGOなどの)共同体で育つすべの子どもたちが、例えばクメール語をうまく使えるかというだけでなく、外部との生活のスタンダードに違いがあって現代のカンボジア社会に十分に順応できるとは限らないのです。

私たちは皆、それぞれの母国に戻り、カンボジアでの発見や学習を振り返る時間を持つでしょう。私はプノンペンでの最後の訪問が終わってから、出発のほんの数時間前にトゥール・スレン虐殺犯罪博物館に向いました。そこにはかつての高校が、人間の悪と暴力による残虐行為が、貪欲な支配力に侵され、極端な悲劇の場となった証拠が残されています。カンボジアに於て、人間は、ぞっとするほどの、生々しい力と、その時点にとどまらず、適応し進化する力をも持ち合わせていることを思い知らされたように思いました。

(ICEP Blog 五嶋みどりのブログより抜粋)

認定NPO法人

ミュージック・シェアリング

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ708
TEL:03-3261-1855 FAX:03-3261-1856 E-mail:info@musicsharing.jp
<http://www.musicsharing.jp>

